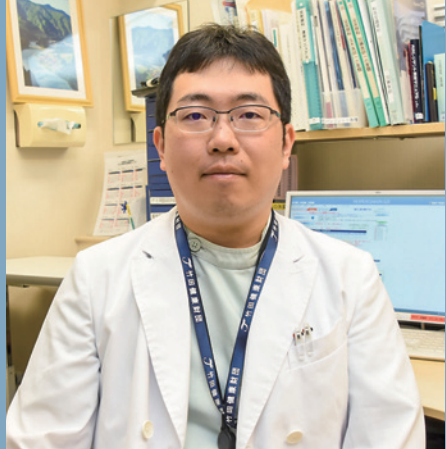


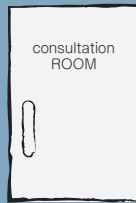


泌尿器科 医長

胡口 智之

こぐち ともゆき

きょうは
泌尿器科
です



こんにちは
診察室です。

女性が悩まれている
泌尿器疾患を
ご存じですか？

「こぐち ともゆき」は泌尿器科医です。このバックナンバーがご覧いただけます。



泌尿器疾患は、男性だけの疾患でしょうか？

皆さんは、泌尿器科を受診することにごどのようなイメージをお持ちでしょうか。



中高年の男性が「おしっこが出なくなった」「おしっこの勢いが弱く、残尿がある気がする」「最近、おしっこの回数が多くて困

る」「夜になるといつもおしっこに行くのでよく寝ることができない」「急におしっこに行きたくなってしまう、間に合わずに漏れてしまう」など、おしっこのトラブルを思い浮かべたりはしないでしょうか。

前述のような症状の他にも「血尿がでた」や「健康診断で尿検査や採血検査で引っかかった」といった理由で、泌尿器科を受診される方をイメージされるかもしれませんが、多くの方は泌尿器科を受診する患者さんについて、中高年の男性をイメージされると思います。

最近では、急に我慢できないくらいおしっこをしたい（尿意切迫感）という症状を主訴とした過活動膀胱という病気が広く認知されるようになり、中高年の男性だけではなく、女性の方も泌尿器科を受診されるようになりました。しかし、排尿や会陰部の悩みなど「おしもの相談」は恥ずかしさもあり、我慢される女性が多いことも事実です。

そこで今回は、女性が悩まれている泌尿器疾患について触れてみたいと思います。

どんな時に尿漏れを起こしますか？

幼少期にトイレトレーニングを終え、大人になってから尿漏れが起こるようになってしまった場合、要因によって2種類の尿漏れ（尿失禁）に分けられます。

●**切迫性尿失禁**：前述の尿意切迫感を主訴とした過活動膀胱という疾患は、急に我慢できないくらいの尿意を自覚しますが、必ずしも尿失禁を伴う訳ではありません。しかし、過活動膀胱の患者さんの中には、尿意切迫感の自覚とともに尿失禁を来してしまうこともあり、その場合は切迫性尿失禁とい

「女性が悩まれている泌尿器疾患」についてご説明します。

う疾患になります。尿意切迫感、水に触れたり、水が流れる音を聞いたりすることで誘発されることもあり、日常生活に支障を来たしてしまいます。過活動膀胱の原因ははっきりしないことも多く、40歳以上の日本人女性では10人に1人が過活動膀胱で悩まれています（1）。

過活動膀胱の患者さんでは、膀胱が意図せず収縮することで症状が惹起されるため、治療では膀胱の収縮を抑える薬剤を飲んで症状の改善を図ります。また、後述する骨盤内臓器脱を患っている女性では、患っていない方と比べて過活動膀胱の症状のある頻度が高いことが知られています。そのため、過活動膀胱では、骨盤内臓器脱の有無も念頭に診療を進めることが重要となります。

●**腹圧性尿失禁**：くしゃみや咳、重い荷物の持ち上げ、座っている状態から立ち上がる時など腹圧がかかった時に尿失禁を来す場合、腹圧性尿失禁という疾患になります。原因としては、出産や加齢に伴い骨盤底筋が弱くなることで膀

胱や尿道の支えが緩くなってしまう、尿道が大きく動いてしまうことと尿道を締める力が弱まることで腹圧性尿失禁が起ることを考えられています。出産を経験された女性の約4割程度の方に尿失禁の経験があることが知られています（2）。

腹圧性尿失禁を患っている患者さんへの治療では、まず骨盤底筋訓練を行ってもらい骨盤底筋の強化を図ります。また、骨盤底筋訓練を行いつつ、内服薬を併用することで症状の改善が期待されます。骨盤底筋訓練や内服薬の併用でも症状が改善しない方や、スポーツ・外出を積極的に行う方は、手術療法も選択肢となります。尿道の下にテープを挿入して支える中部尿道スリング手術（TVT手術、TOT手術）は、比較的侵襲的な術式になります。

●**骨盤内臓器脱**：骨盤底筋が弱く陰部にピンポン球のようなものが出たり、触れたりしますか？

なってくると膀胱など骨盤内の臓器の支えが緩くなってしまういます。それに伴い女性では、膈から膀胱や子宮、小腸、直腸など骨盤内の臓器が脱出してしまうことがあり、このような状態は骨盤内臓器脱といえます。

骨盤内臓器脱の程度にもよりますが、「股に何か挟まっている感じがする」「入浴した時に膈のあたりにピンポン球くらいで柔らかいものが触れる」などの症状を患者さんは訴えられます。骨盤内臓器脱では、20歳から59歳までの女性の約3割（3）、出産経験のある女性の約半数（4）が骨盤内臓器脱の症状で悩まれています。

骨盤内臓器脱の程度にあわせて治療法が選択されます。軽度の骨盤内臓器脱の患者さんでは骨盤底筋訓練を継続して行うことで症状の緩和が期待されますが、骨盤内臓器脱の程度が強い患者さんでは処置や手術を行う治療となります。

処置としては、ペッサリーという器具を用いて脱出している臓器を中に押し込める方法がありま

す。手術療法では、従来法（膈壁形成術や膈閉鎖術など）といった術式その他、メッシュを用いた手術を行うことがあります。

泌尿器科では、女性に特有な疾患も診療対象となります。

泌尿器科では、男性特有の疾患のみを対象としているだけではなく、前述のような女性に特有な疾患も診療対象としておりますので、症状を悩まれている方は泌尿器科へお気軽にご相談ください。

【参考文献】

- (1) 過活動膀胱診療ガイドライン第3版
- (2) 女性下部尿路症状診療ガイドライン第2版
- (3) Samuelson EC et al. Am J Obstet Gynecol 1999;180:299-305
- (4) Olsen AL et al. Olsen AL et al. Obstet Gynecol 1997;89:501-506